

第3回瑞浪市市民まちづくり会議 会議録

と き：令和6年7月26日(金) 午後7時～

ところ：瑞浪市役所西分庁舎1階会議室

次 第

1. あいさつ
2. 議事
 - (1) 前回のシティプロモーション動画等製作事業の評価等のまとめについて
 - 1) 市民協働課より説明
 - 2) まとめについての委員の意見交換
 - (2) 取組検証
地域計画支援事業（市民協働課）
 - 1) 担当課より説明
 - 2) ワークショップ映像視聴
 - 3) 本事業に参加した市民へのインタビュー
 - 4) 質疑応答
 - 5) グループワーク
 - (3) 条例の改正の適否について
 - 1) 市民協働課より説明
 - 2) 令和5年度取り組みについて→次回までに条例改正の適否について検討
3. 閉会のことば

配 布 資 料

- ・ 次第
- ・ 瑞浪市市民まちづくり基本条例に基づく取組み計画及び評価表
- ・ 第2回グループワークまとめ①
- ・ 第2回グループワークまとめ②
- ・ 瑞浪市市民まちづくり基本条例に基づく取組み計画及び評価表
- ・ 地域計画書
- ・ 明世地区活動資料
- ・ 空き家でええんかいチラシ
- ・ 明世ホテルNIGHT 当日風景
- ・ 明世地区のお花畑と養蜂活動の様子

(別紙)

資料 No. 1—1

資料 No. 1-2

資料 No. 1-3

資料 No. 2—1

資料 No. 2-2

資料 No. 2-3

資料 No. 2-4

資料 No. 8

資料 No. 9

出 席 者

- ・ 出席委員
渡邊俊美委員 鈴木圭子委員 高野雅夫委員 後藤誠一委員 小倉弘次委員
足立弘文委員 板垣真裕美委員 本荘恵子委員 中山陽翠委員 石川敏美委員
小野由美委員

・事務局

正木英二（みずなみ未来部長） 奥谷ひとみ（市民協働課長）

中箴高弘（市民協働課まちづくり支援係長） 大高まりあ（市民協働課まちづくり支援係）

1. あいさつ

（渡邊会長よりあいさつ）

2. 議事

（1）前回のシティプロモーション動画等製作事業の評価等のまとめについて

1）市民協働課より説明

2）まとめについての委員の意見交換

（委員）この委員会の意見を参考に、今年度から何か取り組みをされているかお聞かせいただきたい。

（事務局）4月よりシティプロモーション課が新設されている。市民まちづくり会議の意見を踏まえて、出口を含めたPRをしっかりと行ってもらいたいという意見を伝えていく。部署を超えた魅力発信室も新設され、市民協働課も所属しているため、連携していきたい。実施計画にもしっかりと位置付けるよう、本委員会の声を届けていく。

（委員）予算関係は、来年度の予算となるのか。

（事務局）その通り。

（委員）周知について、若い世代はスマホから情報を得ることができるが、高齢者世代は回覧板や広報等で得ることになる。良い動画を作成しても高齢者が取り残されているような疎外感があると感じてしまう。今後、動画の作成をする際には、作成前から周知をしたり、市民参加型にする場合には公募をするなど、限られた年齢層に傾いているのではないか。瑞浪市民の細部まで届くと良い。担当課に伝えてほしい。

（委員）パレオパラドキシア（奇跡の化石）をどの程度視聴されたかリサーチしているか。

（事務局）58万回再生されている。

（委員）全市民に向けてリサーチすることはできないが、中学校や市民団体等で個別に視聴したかどうか感じたか確認すると良い。自分は視聴して面白いと感じた。新しい動画を作ることも大事だが、これだけの動画を作成されたのだから、視聴する機会を設けるなど、もっと活かすことを考えてほしい。

（委員）今後の周知の仕方を具体的にお聞きしたい。今年の3月に多治見市で開催されたこどもフェスタへ参加した際に、瑞浪市化石博物館の職員が「パレオパラドキシア」のレプリカを展示してみえた。他のブースに比べて閑散としており、他市でもPRしておられることはわかったが、寂しい思いで帰宅した。

（委員）今後、視聴されていない高齢者等に向けて、寿大学や長寿会等で上映会を開催するのはどうか。視聴後にアンケート調査を実施しては。

（委員）周知の方法として、モニター等で映像を流し続けると目に触れるのではないかな。また、動画を作成している先進事例を参考にしてはどうか。ターゲットも細かく設定してはどうか。予算を使って作成している動画なので、眠らせておくのはどうか。

（委員）クセ強しの事業は良かった。掲載されている方々に会いに行くツアーも造成されており、出口がはっきりしていることは良かった。今後もこの仕組みで行うと良い。

(2) 取組検証

地域計画支援事業（市民協働課）

1) 担当課より説明

市民協働課より説明

2) ワークショップ映像視聴

3) 本事業に参加した市民へのインタビュー

本事業に参加した市民（陶町・明世地区まちづくり推進組織関係者）へのインタビュー（事務局）ワークショップに参加した感想

（陶）陶の参加人数は決して多かったとは言えないが、発言内容は共通していた。その場で集約した5つの項目は、世代性別を超え、行政からの示されたものではなく、参加者からの意見を出せたことは大変良かった。

（明世）明世は6項目にまとめた。参加者がそれぞれの問題意識を持ち、グループワークで議論できたことが良かった。これまでできなかった経験が、今後につながっていくと考える。

（事務局）この地域計画策定ワークショップに参加したことで、何か変化（個人及び地域）が生じたか。

（陶）これまで空き家が増えていることに対し、何の対策もできていなかった。何かしなければいけないと思っていても行動する大義名分がないため、10年後を見据えた活動ができなかった。しかし、地域計画ができたことで、同じ方向を向いて進むことができるようになり、活動がやりやすくなった。

（明世）6項目の中で、「メディアに取り上げられるほど“素敵な農村”」の項目について取り組むことになり、もともと準備していた計画に対してインスタグラムを開設し、中京高校とタイアップして実行できている。進めていくうちに、地域の協力者が増えていると感じている。ワークショップに参加した人だけではなく、そこから派生した若い世代の協力者も出てきた。何か活動していると知ってもらえたことが良かった。ワークショップに参加したことで、まちづくり活動というものは、担い手が限定しているわけではなく、みんなで少しずつでもいいからやれる活動だとわかったことが、ワークショップを行って良かったと感じている。

（事務局）これからの展望、具体的な計画等を伺いたい。

（陶）「空き家でええんかい」というグループを立ち上げ、2回会議を行った。そこに市の職員がファシリテーターとして入ってもらえているのが大変ありがたい。今後は、具体的に空き家のオーナーとの調整を進めていく。

（明世）明世のインスタグラムを開設した。更新、運営は自身が行っている。中京高校地域活性化部とまちづくり推進協議会で、「お花畑と養蜂」の活動を実際に進めている。この活動は来年度以降も続けていきたいと考えている。もう一つの取組は、「ホテルの育成事業」である。活動の担い手が高齢であるため、後継者の育成が課題である。

（事務局）瑞浪市に望むことは何か。

（陶）市の職員をファシリテーターとして育成してほしい。

（明世）市の職員に引き続き伴走支援をお願いしたい。

4) 質疑応答

（委員）日吉の地域計画策定ワークショップに参加したが、他の会議等の参加者とほとんど同

じメンバーであった。ワークショップでは、この地域計画の事業を誰がやるのかという意見が出た。まちづくり推進協議会がやるのは体制ができているので良いが、他のグループや団体が取り組む場合にはどのように進められているか。

(陶) グループを立ち上げたときに、まちづくりの組織には入れなかった。まちづくりの組織は、すでにたくさんの事業を行っているためである。このグループは空き家対策に興味がある人だけの集まりとした。

(委員) グループを立ち上げ事業を行うには予算が必要である。予算はどうされたか。

(陶) 他地域の先進事例を参考に、まちづくりに計上した。

(明世) まちづくり組織内で行う事業のみ行っている。

(委員) 養蜂について、採取後の展開はどのようなか。

(明世) 養蜂は中京高校地域活性化部の事業である。明世地区は、休耕田を貸して草刈り等の管理をしている状況。レンタルの巣箱を2箱設置しているが、今年度からの取組でどれだけ採取できるかも不透明であるため、サポートする役割である。

(委員) 「空き家でええんかい」は、区長会との関りはあるか。

(陶) 区長会に関わっていない。

(委員) 明世に子ども会組織はあるか。子ども会組織を関わらせたらどうか。

(明世) 4つある。子ども会組織との連携は考えているが、親世代が現役世代であるため、なかなか参加が難しい状況である。こいのぼり祭りのイベントに、子どもが参加してくれた実績があるので、当面はイベントに参加してもらい周知していくよう取り組みたい。

(委員) 陶と明世に若いリーダーが誕生し、大変頼もしく感じている。自分たちの良き理解者となってもらえる少し上の世代を上手く味方につけて進めていくと良い。今後、自分たちが信頼できる参謀としての仲間をつくっていくことが大事である。ファシリテーターとしての市職員の知恵を吸収して組織の財産とし、たくさんの人脈をつくって、地域の特色のあるまちづくりを進めていただきたいと思う。自分たちの町の中で人材育成を進めていただきたい。

(委員) 明世地区まちづくり推進協議会の会長は、どのような経緯で引き受けたか。

(明世) 立候補した。実家は他市で、地域で子どもを育てている良い意味での田舎だった。明世にお嫁にきて、地域の大人も子どももドライな感じがした。個人的に子どもを巻き込んでゴミ拾いや勉強会を行っていたが、それだけでは足りないと感じた。将来、明世に戻ってきたいと思う子どもを育てるにはどうしたらよいかと考えたとき、予算があり年齢や性別も制約のないまちづくり推進協議会の会長はどうかと考えた。実際になってみると子どものために動こうと考え、支えてくださる地域の方がみえることが分かった。私がやりたいことを実行するために一緒に考えてくださる雰囲気が出来上がっている。

(委員) まちづくり推進協議会の部会等の見直しを図っていくと良い。

(委員) 明世地区で協力者が増えているのは、情報がどのように伝わっていったのか。

(明世) お花畑の事業は道路沿いでやっているため、皆さんの目に触れていること。参加への働きかけをまめに行っている。今まで返事をしてくださる方は70代の方だったが、50代40代の方が毎回ではないが、参加できる時間帯に参加していただくようになった。返事をしてくださる方が増えているのは、新聞に取り上げられたり、インスタグラムをやったり、人に見られるということが要因の一つだと思う。

(委員) お花畑に目をつけられたのは良いと思う。

(委員) コミュニティスクールとの関りはあるか。

(明世) 小学校に対しては構築している。中学校はこれからである。

(陶) できている。

(委員) 校長先生と話をし、コミュニティスクールの中でPTA等の協力を得られるように話をしていくと良い。

5) グループワーク

① 取組状況の評価

感想、特に評価すべき点などを付箋に記入

② 改善点を考える

「市民」「行政」それぞれの役割、できることを考え、改善点、不足する部分を付箋に記入

1 グループ 出た意見を種類別に大きくグループ分けしました。

話し合いの機会、内容、方向性等について

- ・ 思いを持った人が手を挙げる機会になったことが良かった
- ・ とても良かった。住民が地域のことを自分ごととして話せたこと
- ・ 新たな人材が発掘出来た
- ・ まちづくりの新しい担い手が出てきたことが良かった
- ・ 地域の課題 陶が共通理解が出来た
- ・ 問題意識から共通認識になったワークショップ
- ・ まちづくり活動の指標が出来た
- ・ まちづくりの方向性がなんとなく住民の中で合意出来たことが良かった
- ・ 若い人の新しいアイデア、提案 例-花
- ・ 様々なアイデアが聞けて良かった
- ・ より具体的な計画と実施体制
- ・ 総合計画と地域計画との整合性は

地域活動の在り方について

- ・ まちづくり組織の改革 やらされ感のあるものは思い切ってやめる
- ・ まちづくり組織の改革 団塊世代が担ってきたことすべては、もう出来ないのではスリム化する
- ・ まちづくり組織の改革 やりたい人が集まってグループをつくり、そこに予算をつける
- ・ 参加者の固定化 もっと多くの人が
- ・ 参加者の顔ぶれがいつも一緒
- ・ 若い人の参加が少ない
- ・ メンバーの広がり

地域計画策定の過程における改善点について

- ・ 実施するにあたり予算助成が必要である
- ・ 3回では少なすぎた
- ・ 3回では少ない？
- ・ ワークショップの時がもっと欲しかった
- ・ 職場に入りこんで伴走出来る体制、スキル

- ・職員がファシリを出来るようにトレーニング
- ・町民全体での盛り上がりがなかった。PR 不足では？

2 グループ 出た意見を種類別に大きくグループ分けしました。

話し合いの機会、内容、方向性等について

- ・町内の課題が明確になり共通理解が出来た
- ・市内の全ての町協が作成出来て良かった
- ・共通価値、理念、将来像を決める場をつくれた
- ・まちづくりを可視化出来た⇒文字
⇒実践
- ・参加者が増える
- ・高校生から80代まで奥の参加者の思いが聞けた
- ・学校や団体等、巻き込んで動くことがよい
- ・地元を良くしようと考えている市民が多くいる 良い
- ・子どものためにと思いをもつ人がいる

地域活動の在り方について

- ・誰かがやってくれるという他人まかせが多い
- ・いつも同じ人が役をもっている 個々が協力する
- ・やりたいことベースで見直してもよいのでは？⇔前例
- ・子ども、若者の意見も！（行政も）
- ・後継者育成
- ・伴走者育成

地域計画策定の過程における改善点について

- ・町の課題をある程度焦点化してファシリテーター（進行役）が進めて打ち合わせを
- ・事前の町協の執行部との打ち合わせが不十分であった
- ・地域と行政の「間」の作り方の工夫がいる
- ・職員の配置について地域の意見を聞く会
- ・CS との連携（学校と地域の連携）
- ・時間配分がうまくいかなくて終わってしまったことが残念
- ・参加者のフィードバックがやや不足していたと思う
- ・事前のグループ分けで話し合いのリーダー的な人がグループにいることが大切
- ・第1回からの焦点化がやや甘いと思った
- ・人数のバランス（課題別）が悪かったと思う
- ・ワークショップ開催の情報提供不足 知らない人が多い（瑞浪地区）
- ・町内に広がる方法を事前に伝えておくが良い

グループ別の意見まとめ

多世代からの意見をもとにした、新たなアイデアの創出をはじめ、真摯に地域での話し合いをする機会となったことは良かった。話し合いを進める中での共通理解、地区で今後取り組む活動についての方向性について、地域としての大枠の合意形成に繋がるものになったと評価できる。

しかし、ワークショップの回数が僅か3回と少なく、十分な話し合いをすることができたとまでは言えない。回数は少ない分、事前に策定の中心となるまちづくり推進協議会との事前・事後の打ち合わせをもっと充実するべきであった。今回の事業について、内容が大変重要であるにもかかわらず地域での盛り上がりが欠けたと評価される点については、地域での情報提供・共有がうまくいっていなかったものと考えられる。地域と関わる市の職員が地域とうまく調整を行えるためにも、会議内外でのファシリテーターとしての能力を磨いていくべきである。

また、地域活動自体について、参加者が固定化され、子ども・若者などの新たな関係者のへの拡がりがない。現状の担い手でできないもの、やらされ感のあるものは思い切ってスリム化を検討すべきである。やりたい人がやりたいことを地域のためになる活動としてできるように見直す時期にきている。そうすれば、他人任せでなく、自主的に楽しく、自然発生的にヒトが集まり、活動できるようになるのではないか。活動を見直す中で、子ども・若者にも参画してもらえよう、地域全体でPR・調整をすることで、新たな担い手が見いだされ、後継者・伴走者の育成へと繋げ、持続可能なまちづくりへと変化させていきたい。

(3) 条例の改正の適否について

1) 市民協働課より説明

2) 令和5年度取り組み評価表について→次回までに条例改正の適否について検討

4. 閉会のことば

みずなみ未来部長より閉会のことば